

結言

記念誌の刊行、そして新たな旅立ち

高岡短期大学長 西頭徳三

『高岡短期大学二十二年の歩み』は、多くの執筆者のご協力により、他の類誌に決して見劣りしない、充実した内容のものとなった。私は幸運にも、高岡短期大学運営の最後の時期に参画し得たものの、本学創設時の困難な状況やその後の血の滲むような努力については、推測の域を出なかった。

記念誌の企画に当たり、二つの狙いがあった。ひとつは、本学22年間の歩みの「資料」を出来るだけ収集すること。もうひとつは、本学関係者のみならず、誰もが「楽しく読める」ものにすること。今、本誌を手にして、執筆者各位の情熱のこもった記録を読むことで、その22年間の紆余曲折が、時間的な流れとして、また社会的な横の繋がりをもって、より深く理解できた。

この記念誌は、所期の目的を十分達したものと思う。本誌(第一分冊回想編)と第二分冊をあわせ読むことで、高岡短期大学の教育研究の展開を少しでも理解していただければ幸いである。改めて、当時の状況についてご執筆いただいた皆様に厚くお礼を申し上げたい。また、本学の記念誌編纂委員会の横田勝委員長をはじめとする委員各位に深く感謝したい。

記念誌の刊行は、決して高岡短期大学の終焉を意味しない。平成17年10月1日、高岡短期大学は、新・富山大学の「芸術文化学部(四年制)」に生まれ変わり、再出発する。新・富山大学は、人文、人間発達、経済、理工、医、薬の7学部に加え、新・芸術文化学部を加えて8学部から構成される。芸術文化学部は本学の22年間に及ぶ教育研究上の実績を踏まえ、新たな教育研究分野に挑戦する。ちなみに、「文化マネジメントコース」では、潜在的な地域文化を掘り起こし、新たな地域文化を構想できる人材の育成を目指す。また、県内初の「造形建築科学コース」では、芸術的感性と工学的知識・思考力を併せ持ち、新たな建築文化を提案できる人材を社会に送り出す。

高岡短期大学では、新たな旅立ちに向けて、大学院の設置など教育研究体制の充実について議論を深めている。その意味で、この記念誌は、新学部の出発点における「教育研究実績の記録」であり、今後における芸術文化学部の発展度合いを測る「評価基準」になるものと位置づけている。

編集後記

高岡短期大学が誕生してから平成17年で満22年が経ちます。今年の9月30日には高岡短期大学の看板が下ろされ、10月1日から富山大学芸術文化学部として再出発することになっています。今年の4月には高岡短期大学最後の入学生・第20期生を受け入れましたが、この学生達は10月から富山大学高岡短期大学部に在籍し、一部の学生で専攻科に進学する人達が4年後に専攻科を修了すると同時に、基本的には同短期大学部は幕を閉じることになります。このように高岡短期大学に取りまして今年には大きな節目を迎えることになりました。これを機会に22年間の高岡短期大学に色々な形で関わってこられた方々や学生たちの思い出話、そして色々な出来事を記念誌として後世に残そうとの話が持ち上がり、記念誌「高岡短期大学二十二年の歩み」を編纂することになり、平成15年の暮れに委員会が発足した次第です。記念誌は第1部、回想編、第2部、資料編の2分冊にすることが決定されました。初期の予定では記念誌の発刊を平成18年3月とすることになっていましたが、平成17年9月に高岡短期大学の閉学式を挙げる計画が持ち上がり、急遽記念誌の第1部、回想編だけでも閉学式に間に合うよう、そしてこれを参列される方々に進呈してはどうかとの声が上がりました。記念誌の発刊を半年間短縮することにより多くの難題が出てくることは予想されましたが、敢えてこれを実現するべく予定変更に踏み切りました。この予定変更に伴い、回想文を執筆していただいた方々や編纂作業に携わられた編纂委員各位の積極的なご賛同・ご協力の下で辛うじて、予定通り記念誌、第1部が9月30日に刊行されることになった次第です。なお、第2部、資料編につきましては予定通り平成18年3月の発刊を目指して編集作業を進めております。

何分にも限られた期間内での作業のため記念誌の内容に付きまして、編纂委員会の責任に帰します訂正すべき点が多々出てくるかと予想されます。その節は訂正箇所等をご指摘いただき次の機会にこれらを改めまして皆様方にお伝えいたしたいと考えています。

高岡短期大学の閉学と新しい富山大学芸術文化学部への移行の時期を契機に編纂されました、この記念誌を末永く座右の書としてお留め頂き、高岡短期大学時代の思い出を懐かしんで頂けましたならば記念誌編纂委員一同この上ない喜びといたすところであります。

学内外に渡る多方面の多くの方々、西頭学長を初めとする学内教職員の皆様、そして卒業生や在学生の皆様からのご協力・ご支援を頂きましたことに心から感謝いたしております。(横田記)

記念誌編纂委員会

(委員) 安達博文 磯部祐子 岡田文之助 沖 和宏 久保欣五 高橋誠一
立浪 勝 堀江秀夫 ○宮崎雅司 村上恭子 ◎横田 勝 吉田俊六
(◎委員長、○副委員長)

(編集補佐) 長柄亜希子

高岡短期大学二十二年の歩み

第1部 回想編 — 二上キャンパスへの想い —

平成17年9月30日発行

編集 記念誌「高岡短期大学二十二年の歩み」編纂委員会

発行 国立大学法人 高岡短期大学

〒933-8588 富山県高岡市二上町180番地

電話 0766-25-9111(代表)

印刷 能登印刷株式会社

表紙デザイン 専攻科 産業デザイン専攻1年生 岸本万由子

イラスト 産業デザイン学科 平成17年卒業生 武田 翼

産業デザイン学科 2年生 小瀬真利子
